

インナーチャイルド

福井 真綾



私は幼少期に経験したことに囚われて生きています。

大人になったのでいい加減そういうことに囚われず前向きに生きようって思うほど、頑張りすぎて潰れてしまう。ずっとそうやって生きてきたから、そういう子がいても私が助けてあげられるとは思いません。でも辛いんだって分かるからそういう子にはできる限り寄り添えるならそうしたい。

私がそう思えるのは幼少期の経験からできた私の感性のおかげだったり、色々挫折を味わってきた私が今、立ち止まらずに生きていてくれることが嬉しいと言ってくれる人が母親だからだと思います。

だから辛かった幼少期も否定せず生きていきたい。そう思い、自分が懐かしい、子供の頃の自分も好きだと言ってくれそうな愛嬌のある作品を制作しています。

地元から離れた東京の学校に通っているのですが、作品が学校で展示されたりしても、親に見に来てもらうことはなかなか難しいのですが、今回は私の出身の兵庫での開催とのことで、自身の作品を見てもらえるチャンス、少しは親孝行にもなるのではと、折角なら長期休暇中に新たに1体制作しようと熱意が沸いたため、今回はインナーチャイルドに、親への『プレゼント』というテーマをプラスして、私らしさを詰め込んだ、私の存在を感じられるような、そんな作品を制作しました。

前向きな気持ちを表せるよう、オレンジやイエロー、レッドなどをベースに明るい色で仕上げています。



IFD2023-BF-04



プレゼントらしくリボンを使用し、ヘアピンレースを取り入れました。

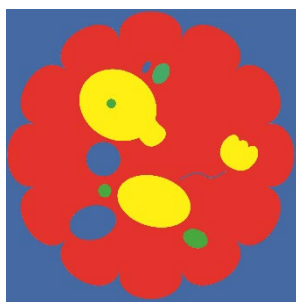
夏季休暇中での制作だったため、涼し気な素材も使用したいと考え、コットンヤーン、テープヤーンを使用しています。

靴は自身のブランドの『あるる館』を意識して発色の良いアクリル毛糸を使用。動物の顔を付け、ぬいぐるみのような愛着が湧くデザインにしています。

他にも、

- ・被るだけで少女になれる赤毛おさげ帽子
- ・ビニール素材と組み合わせ夏らしく仕上げたクリームメロンソーダのバッグ
- ・どこか懐かしさを感じられる'80sファンシーなタイツとぬいぐるみ

などもポイントです。



◀自身ブランド『あるる館』ロゴ
▼身に着けた人の心に寄り添える子になってくれるようほとんどの商品に顔を付けています。



▲制作前段階のデザイン画